

# 地震一口メモ No. 158

## 2018年6月18日 大阪府北部の地震について②

2018年6月18日07時58分、大阪府北部の地震（深さ13km、M6.1）により、大阪市北区・高槻市・枚方市・茨木市・箕面市で震度6弱を観測したほか、近畿地方を中心に、関東地方から九州地方の一部にかけて震度5強～1を観測し（図1）、死者5人、負傷者435人、住家全壊12棟などの被害がありました（7月29日09時30分現在：総務省消防庁による）。この地震は陸域の浅い地震でした。

この地震発生後、震度1以上を観測した地震が、7月31日までに54回発生（最大震度4が1回、最大震度3が5回、最大震度2が14回、最大震度1が34回）しており、現在も地震活動は減衰しつつも継続しています（図2）。平常時より地震活動が活発な状況が続いており、今後も現状程度の地震活動は当分続くと考えられます。揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっていますので、今後の地震活動や降雨の状況に十分注意し、身の安全を図るよう心がけてください。

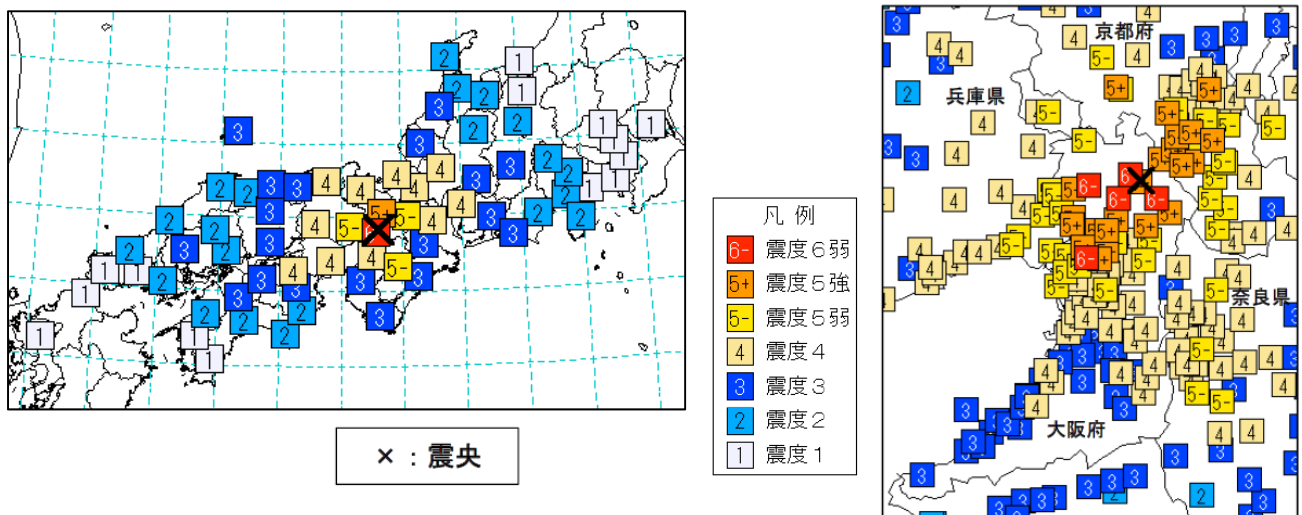


図1 6月18日07時58分 大阪府北部の地震（深さ13km、M6.1）（左）地域震度分布図、（右）観測点震度分布図（大阪府周辺を拡大）

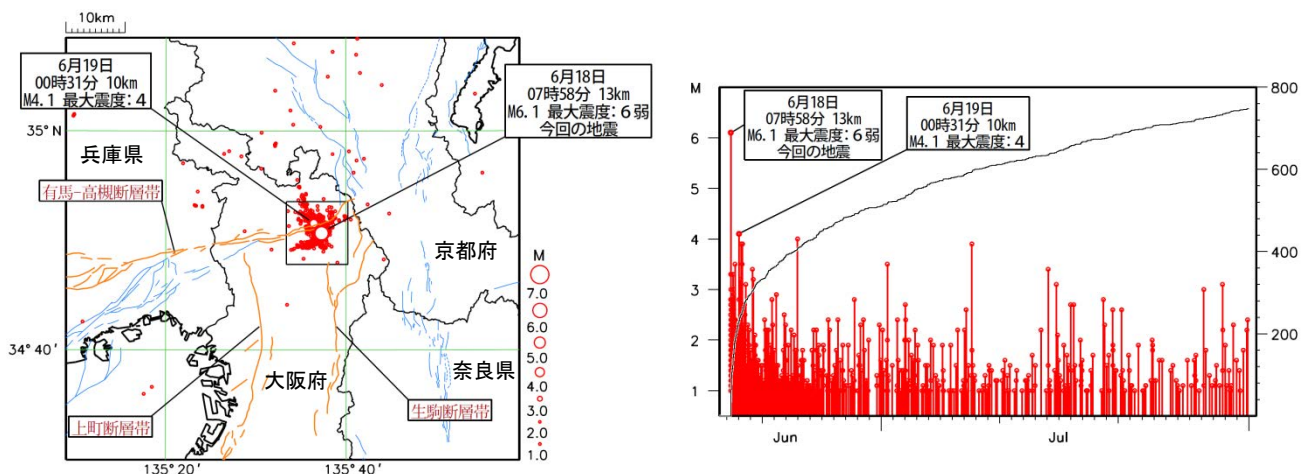


図2 （左）震央分布図（2018年6月18日～2018年7月31日、マグニチュード1.0以上、深さ0～20km）

6月18日のM6.1の地震とその後の最大規模の地震に吹き出し、

図中の橙色と水色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

（右）震央分布図の四角枠内の地震活動経過および回数積算図

7月10日、地震調査研究推進本部地震調査委員会は、6月18日の大阪府北部の地震に対する評価<sup>※1</sup>を公表しました。要点をまとめると次のようになります。

「地震を起こした断層は概ね北と南の2つの断層で構成される。北側は東に傾斜する逆断層で南側は南東に高角で傾斜する右横ずれ断層である。」

※1 [https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2018/20180618\\_osaka\\_2.pdf](https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2018/20180618_osaka_2.pdf)

国立研究開発法人防災科学技術研究所の地震ハザードステーション（以降、J-SHIS）では「確率的地震動予測地図」（以降、予測地図）を参照できます。予測地図は、日本とその周辺で発生する全ての地震の位置・規模・確率に基づいて、各地点がどの程度の確率でどの程度揺れるのかをまとめて計算し、その分布を地図に示したもので、図3は大阪府周辺の「今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率」の分布を示したものです。なお、予測地図は、2015年以降、毎年1月1日付けで公表される長期評価に基づいて更新されています。また、図3の右端には確率の数値の重みを受け止めていただくため、同列に比較できるものではありませんが、日常生活における事象の発生確率<sup>※2</sup>を示してあります。

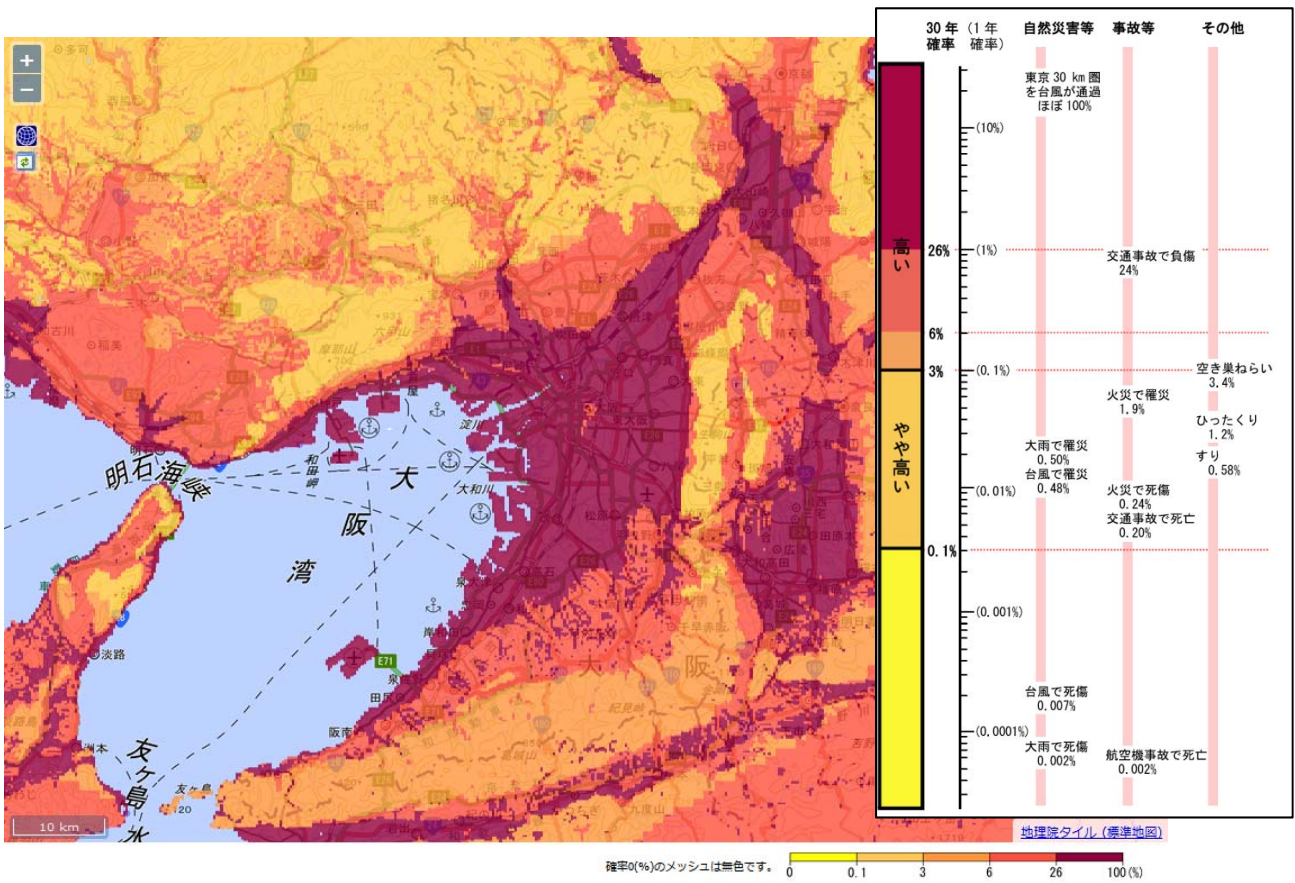


図3 今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布（平均ケース）

J-SHISのHP <http://www.j-shis.bosai.go.jp/map/>より

※2 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2006.9.25）より抜粋

日本国内では、いつ、どこで、強い揺れを伴う地震が発生してもおかしくありません。日頃から地震への備えを心がけてください。